

# 果樹園の土づくり

土の性質は、物理的性質・化学的性質・生物的性質の3つの要素から成り立っています。それぞれが総合的に関わり合って、地力となります。地力とは体力のようなもので、物理的性質・化学的性質・生物的性質をより良い状態に改善することが土づくりです。

## 〔1〕物理的性質の改善

- 1 土壌の三相（①固相：土の本体②液相：水分③気相：空気のすきま）を適正にする。固相率が増加するほど土は硬くなり、通気・排水性が悪くなり、根張りが悪くなる。ほ場の中では重機が走り、土壌を踏みつけるため、土壌中に硬い層ができてしまう。
- 2 このため、粒子構造の改善をする。粒子には単粒・団粒構造がある。団粒構造になるとすきまが多くなり通気・排水性・根張りも良くなる。団粒構造にするには腐植（有機物が腐熟してできるもの）が必要。
- 3 草生栽培によっても、有機物の補給や団粒構造の維持、水分空気の浸透に役立つ。

## 〔2〕化学的性質の改善

- 1 土壌診断実施によって、化学的性質が読み取れる。結果により、必要な養分を補給し、不要な養分を与えない事で適正化を図る。
- 2 近年は、土壌のpH（ペーハー）が中性に近づいてきている園が目立つ。作物により好適なpHの適正範囲があり、逸脱すると微量要素欠乏症や過剰症・根の張り不足が問題になるため、適正化する。適正pHより、中性に近づいている場合、基肥施用にあわせて、「ガッテンペーハー」10 a 当り5袋を樹冠下中心に施用する。また、軽く耕うんできる場合は実施し、土と混ぜる。なお、石灰成分の施用はひかえる。（サンライム、醗酵けいふんなど）

## 〔3〕生物的性質の改善

- 1 微生物の多様性に富んだ土壌は病害に強いと言われる。微生物の数が少なくなると、病害を引き起こす微生物が増えやすくなる。
- 2 連作により微生物の数や種類が減った土壌には、堆肥（有機物）を施用する。

## 〔4〕堆肥（有機物）の施用

- 1 利点（①：有機物の補給②：団粒構造の維持③：水分・養分競合が少ない）
- 2 欠点（①：施用する手間がかかる②：カリ等不要な養分を補給してしまう場合がある）
- 3 施用上の注意点
  - ① 10 a 当り1～2 t 程度を施用する。連年施用する場合は礼肥・基肥を減肥する必要がある。
  - ② 適正な堆肥を使用する。その他の堆肥を施用する場合は、完熟なものを使用し、成分等を勘案して使用する。

商品名	成分	特徴
グリーン長野堆肥	N1.1-P0.8-K0.3	炭・バーク主原料に牛糞を配合。
エアープイント	N 1.07- P 2.18- K 0.88	コーンコブを主原料に醗酵鶏糞と醗酵促進微生物を配合。

# 果樹の施肥基準

## 〔1〕全共通事項

- ① 近年の土壌診断の結果から土壌pHが7.0に近づきアルカリ性化が進んでいる。また、石灰・りん酸・加里が過剰傾向、苦土・微量要素が不足傾向となっているため、土壌診断を積極的に実施し、適正な施肥を心掛ける。
- ② 本施肥基準の記載量は、成木基準のため、幼木は3分の1程度、若木は2分の1程度を目安に施用する。
- ③ 微量要素が不足している場合は、3月に総合微量要素資材「ミネパワー」を10 a 当り1～2袋施用する。薬剤防除に、ボルドー液を散布する品目は「C」タイプ。それ以外の品目は「S」タイプを使用する。

- ④ ほう素欠乏対策として、3年に1回「ほう砂」を10 a 当り3kg施用する。
- ⑤ 苦土が不足している場合は、4～5月に「硫酸苦土（硫マグ）」を10 a 当り1～2袋施用する。
- ⑥ りん酸・加里過剰でない場合は、「有機専科」に代えて、「プレシヤス有機K」を同量施用してもよい。

## 〔2〕りんごの施肥基準……10a当り目標収量 4,000kg

適正土壌PH（蒸留水分析） 6.0～6.5

### 1 通常栽培

品種	施用時期	肥料名	施用量	肥料要素成分量（kg）			
				窒素	りん酸	加里	苦土
ふじ	11月下旬	グリーン長野果樹専用有機入り72	2袋	3.2	0.8	0.4	0.6
		果樹の力	2袋				13.6
	合 計		3.2	0.8	0.4	14.2	
つがる・中生種	4月下旬	有機専科	2袋	2.4	0.8		
		有機専科	1袋	1.2	0.4		
	収穫後	グリーン長野果樹専用有機入り72	3袋	4.8	1.2	0.6	0.9
		果樹の力	2袋				13.6
合 計		8.4	2.4	0.6	14.5		

- ① 中山間地は、「グリーン長野果樹専用有機入り72」と「果樹の力」は11月中旬に施用する。
- ② ふじ・つがる以外の品種は両品種の中間的な施用量で対応するが、どちらかの系統に近いかを判断して適正施肥を行う。
- ③ 肥料の流亡しやすい園地では、基肥を3月上旬に施用する。
- ④ 樹勢が強い場合は、9月にスミクリン5袋を施肥する。
- ⑤ つがる・中生種のわい性樹には、グリーン長野果樹専用有機入り72を1袋増肥する。

### 2 新しい化栽培（高密植栽培）……10a当り目標収量 5,000kg～6,000kg

品種	施肥時期	肥料名	施肥量	ポイント
全品種共通	3月下旬～4月	有機専科	2袋	有機専科に代えてグリーン長野果樹専用有機入り72を1袋でもよい。ただし3月上旬に施用する。
		果樹の力	2袋	
	5月下旬～6月	硫安	1樹20g	樹勢・着果量に応じて調整
硫酸苦土（硫マグ）		2袋		
早生・中生	9月中旬～収穫後	有機専科	2袋	樹勢が弱い場合は3袋とする。有機専科2袋に代えて醗酵けいふん（ペレット）3～4袋でもよい
全品種共通	11月～12月	堆肥	1トン	堆肥に代えて、グリーン長野果樹専用有機入り72を2袋と果樹の力2袋でもよい

- ① 近年樹勢の低下や品質低下が多い傾向。基本となる管理を正しく行う（誘引・適期の摘花（果）・適正着果量・葉摘みなど）
- ② 定植1年目
  - ・ 定植前に除草・耕うん・堆肥を投入するなど、根張り・排水性・保水性を確保する。
  - ・ 5月下旬以降に主幹伸長を確認しながら、必要に応じて7月末まで窒素の施肥を行う。2週間間隔で2～3回、「硫安」を1樹当り20～30g施用する。
- ③ 定植2年目
  - ・ 5月下旬に樹勢が弱い場合は、「有機専科」を10 a 当り1袋施用する。
  - ・ 9月中旬～10月上旬に「グリーン長野果樹専用有機入り72」「果樹の力」を10 a 当り1袋ずつ施用する。
- ④ 3年目以降
  - ・ 主幹伸長の状況や土壌診断結果を参考にし、樹勢に応じた施肥を行う。
  - ・ 新しい化栽培はカリ肥料を多く消費するので、「有機専科」に代えて「醗酵けいふん（ペレット状）」でもよい。「醗酵けいふん」はペレット状と粒状で成分が異なるので注意。また土壌PHが高い場合は使用しない。

### 〔3〕もも・ネクタリンの施肥基準……

10a当り目標収量白鳳3,200kg 白桃3,500kg  
 土壌PH(蒸留水分析) 5.5～6.0

施用時期	肥料名	施用量	肥料要素成分量(kg)			
			窒素	りん酸	加里	苦土
9月中旬旬	有機専科	2袋	2.4	0.8		
10月下旬～ 11月上旬	グリーン長野果樹専用有機入り72	4袋	6.4	1.6	0.8	1.2
	果樹の力	2袋				13.6
合計			8.8	2.4	0.8	14.8

- ①樹勢の弱い場合は、満開後10a当り有機専科1袋(20kg)又はノルチッソ0.5袋(10kg)を施用する。
- ②樹勢が強い場合は、3月上旬に10a当りスミクリン2袋を施用する。
- ③ネクタリンは2割程度多めに施用する。
- ④マンガン欠乏が見られる場合は、3月と8月に硫酸マンガンを1樹当り1回0.5～1kg施用する。

### 〔4〕ぶどうの施肥基準……10a当り目標収量1,600kg

土壌PH(蒸留水分析) 6.5～7.0

#### 1種あり巨峰(平坦一般土壌)

施用時期	肥料名	施用量	肥料要素成分量(kg)			
			窒素	りん酸	加里	苦土
6月上旬(満開時)	ノルチッソ	1袋	2.8			
	有機専科	3袋	3.6	1.2		
7月上中旬	硫酸苦土(硫マグ)	2袋				10.0
8月上中旬	ノルチッソ	1袋	2.8			
9月下旬	なたね粕	3袋	3.0	1.2	0.6	
10月中下旬	グリーン長野果樹専用有機入り72	2袋	3.2	0.8	0.4	0.6
	果樹の力	2袋				13.6
合計			15.4	3.2	1.0	24.2

#### 2種なしぶどう・ロザリオビアンコ・スチューベン・デラウェア(平坦一般土壌)

施用時期	肥料名	施用量	肥料要素成分量(kg)			
			窒素	りん酸	加里	苦土
7月上中旬	硫酸苦土(硫マグ)	2袋				10.0
9月下旬	なたね粕	3袋	3.0	1.2	0.6	
9月下旬～10月上旬	グリーン長野果樹専用有機入り72	2袋	3.2	0.8	0.4	0.6
	果樹の力	2袋				13.6
合計			6.2	2.0	1.0	24.2

#### 3ぶどう共通事項

- ①5年生程度までの若木は、グリーン長野果樹専用有機入り72の施用は、控える。
- ②樹勢が特に強い樹は、3月下旬～4月上旬にスミクリンを10a当り5袋程度施用する。  
 また、9月下旬～10月上旬のグリーン長野果樹専用有機入り72を1袋～0.5袋程度とする。
- ③種あり巨峰で、樹勢が弱い場合は、5月中旬にノルチッソ1袋と有機専科2袋を施用し、9月下旬のなたね粕を2袋追加、9月下旬～10月上旬のグリーン長野果樹専用有機入り72を1袋追加する。

### 〔5〕プルーン・スモモの施肥基準……10a当り目標収量2,000kg 土壌PH(蒸留水分析) 5.5～6.0

施用時期	肥料名	施用量	肥料要素成分量(kg)			
			窒素	りん酸	加里	苦土
4月中下旬	有機専科	2袋	2.4	0.8		
9月中下旬	有機専科	2袋	2.4	0.8		
10月下旬	グリーン長野果樹専用有機入り72	5袋	8.0	2.0	1.0	1.5
	果樹の力	1袋				6.8
合計			12.8	3.6	1.0	8.3

### 〔6〕あんず・うめの施肥基準……

10a当り目標収量あんず2,000kg・うめ1,500kg  
 土壌PH(蒸留水分析) 5.5～6.5

施用時期	肥料名	施用量	肥料要素成分量(kg)			
			窒素	りん酸	加里	苦土
4月下旬	有機専科	2袋	2.4	0.8		
7月下旬(収穫後)	有機専科	2袋	2.4	0.8		
10月下旬	グリーン長野果樹専用有機入り72	4袋	6.4	1.6	0.8	1.2
	果樹の力	1袋				6.8
合計			11.2	3.2	0.8	8.0

- ①ほう素欠乏(特に新潟大実)に注意し、ほう砂の施用を行う。
- ②あんず・うめの平坦地ではグリーン長野果樹専用有機入り72を1袋減肥する。
- ③山間地で肥料流亡しやすい園は、果樹の力1袋増肥する。

### 〔7〕なしの施肥基準……10a当り目標収量4,000kg

土壌PH(蒸留水分析) 6.0～6.5

施用時期	肥料名	施用量	肥料要素成分量(kg)			
			窒素	りん酸	加里	苦土
4月中下旬	有機専科	2袋	2.4	0.8		
9月下旬	有機専科	2袋	2.4	0.8		
10月下旬	グリーン長野果樹専用有機入り72	5袋	8.0	2.0	1.0	1.5
	果樹の力	1袋				6.8
合計			12.8	3.6	1.0	8.3

### 〔8〕おうとうの施肥基準……10a当り目標収量1,000kg

土壌PH(蒸留水分析) 5.5～6.0

施用時期	肥料名	施用量	肥料要素成分量(kg)			
			窒素	りん酸	加里	苦土
7月(収穫後)	有機専科	2袋	2.4	0.8		
10月下旬	グリーン長野果樹専用有機入り72	5袋	8.0	2.0	1.0	1.5
	果樹の力	2袋				13.6
合計			10.4	2.8	1.0	15.1

### 〔9〕共通事項

- ①樹勢が弱い場合は、「有機専科」を施用する際、10a当り1～2袋追加して施用する。

# 令和7年度 りんご病害虫防除基準

〔性フェロモン剤コンフューザーR設置園用〕

⑩は劇物のため購入の際にはハンコが必要となります。

散布月日	散布時期	FRAC 又は IRAC コード	散布薬剤 (調合順序・使用倍率)	水100ℓ 当り 調合量	収穫前 日数	10a当り 散布量(ℓ)	対象病害虫名	代替可能薬剤	散布管理上の注意事項
<p>●近年発生が増加している、腐らん病対策(早期発見・早期治療・予防)の徹底をする。もっとも重要なのは、「発見したらせん除・伐採・削り取り」・「予防として切り口の早期保護」の耕種的防除です！</p> <p>●ナシマルカイガラムシの発生が増加しています。第1回目防除がもっとも重要です。必ず実施し、枝・幹にしっかり薬剤を掛けましょう！</p>									
／	<b>1</b> 発芽10日前 (3月中下旬)	NC M2	スプレーオイル※1 50倍 石灰硫黄合剤※2 10倍	(水88ℓ) 2ℓ 10ℓ	発芽前 発芽前	<b>350</b>	ハカイダニ類 越冬病 カラムシ 害虫	※1 ハーベストオイル 50倍 ※2 トップジンM水和剤 1,000倍 又はベンレート水和剤 2,000倍	①カイガラムシ類の被害がない場合は、石灰硫黄合剤に代えて、トップジンM水和剤1,000倍を使用してもよい。 ②越冬病害虫除去には、粗皮削りが重要。また、ナシマルカイガラムシ・リンゴハダニ防除は、スプレーオイルをしっかりと散布する事が重要である。 ③トップジンM水和剤及びベンレート水和剤は、同系統薬剤で、年に一方の使用となる。
／	<b>2</b> 展葉始め (発芽10日後頃) 4月上旬頃	- M2 M3	展着剤※3 10,000倍 コロナフロアブル※4 400倍 アントラコール顆粒水和剤※5 500倍	10ml 250ml 200g	- - 45日	<b>350</b>	うどんこ病 黒星病	※3 ドライバー 1,000倍 ※4 イオウフロアブル 500倍 ※5 ⑩ベフラン液剤25 1,000倍	 ①腐らん病点検を定期的実施し、早期の処理・処分を徹底する。 <b>この状態が2～3芽確認できた時が散布時期</b>
／	<b>特</b> 4月中旬	- M3	展着剤※3 10,000倍 アントラコール顆粒水和剤 500倍	10ml 200g	- 45日	<b>350</b>	黒星病	※3 ドライバー 1,000倍	①第2回から第3回の散布間隔が10日以上空く場合は、第2回散布7日後に、特別散布する。
／	4月中下旬頃	-	コンフューザーR※6			<b>100～ 120本</b>	シンクイムシ類 ハマキムシ類	※6 ナシヒメコン 4月中旬 100本 7月 50本/10a当り	①ナシヒメコンはモモシクイガ、ハマキムシ類には効果が無い。 ②ナシヒメコンを使用する場合は、4月中旬に100本/10a当り、7月に50本/10a当りの2回を設置とする。更に第6回に殺虫剤を加用散布する。又、周囲のブルー・スモモへも設置する事で効果が上がる。
／	<b>3</b> 開花直前	- 52 18	展着剤 10,000倍 ミギワ20フロアブル※7 4,000倍 ロムダンフロアブル※8 3,000倍	10ml 25ml 33ml	- 前日 前日	<b>400</b>	黒うどんこ病 ハケマキムシ類	※7 ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍 ※8 カスケード乳剤 2,000倍	①キンモンホソガ・ギンモンハモグリガの発生が心配される場合は、ロムダンフロアブルに代えて、カスケード乳剤2,000倍を使用してもよい。
／	<b>4</b> 落花直後 (中心花) ※前回10日後厳守	- 7	展着剤※3 10,000倍 ⑩カナメフロアブル 4,000倍	10ml 25ml	- 前日	<b>400</b>	黒うどんこ病 赤褐星斑	※3 ドライバー 1,000倍	①開花中であっても、前回10日後以内を厳守して散布する。 ②アブラムシの発生が心配される場合はウララDF 4,000倍を加用散布する。 ③ハマキムシ、ケムシ類(マイマイガ)の発生が多い場合はバイオマックスDF 3,000倍を加用散布する。
／	<b>5</b> 5月上中旬	- 4A 3 M3	展着剤 10,000倍 ⑩モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 オンリーワンフロアブル 2,000倍 ペンコゼブ水和剤※9 500倍	10ml 25g 50ml 200g	- 前日 7日 30日	<b>400</b>	ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 褐斑病・うどんこ病 黒星病・黒点病 赤星病・斑点落葉病	※9 デランフロアブル 1,000倍	①シンクイムシ類・アブラムシ類の発生が多い場合は⑩モスピラン顆粒水溶剤を2,000倍に代えて使用してもよい。 ②カイガラムシ類発生園は、アブロードフロアブル1,000倍を加用散布する。 ③黒星病の発生が無く、褐斑病の発生が心配な場合は、ペンコゼブ水和剤に代えて、デランフロアブルを使用してもよい。
／	<b>6</b> 5月下旬	- M3 1B	展着剤※10 10,000倍 アントラコール顆粒水和剤 500倍 ⑩ダイアジノン水和剤 34 1,000倍	10ml 200g 100g	- 45日 30日	<b>500</b>	黒点病・黒星病 褐斑病・斑点落葉病 すす斑病・すす点病 シンクイムシ類 リンゴワタムシ キンモンホソガ カイガラムシ類	※10 アビオンE 1,500倍	①降雨が多い場合は、展着剤に代えて、固着性展着剤アビオンE 1,500倍を使用してもよい。 ②腐らん病が多い場合は、一輪摘果が終了したら、トップジンM水和剤1,500倍を特別散布する。なお、トップジンM水和剤とベンレート水和剤は、同系統薬剤で、年に一方の使用となる。

# 令和7年度 りんご病害虫防除基準

〔性フェロモン剤コンフューザーR設置園用〕

病害虫のまん延防止のため、収穫終了後の品種にも必ず薬剤防除をする！

／	<b>7</b> 6月上中旬	— 1B M3	展着剤※10 10,000倍 ⑩ダイアジノン水和剤 34 1,000倍 ペンコゼブ水和剤 500倍	10ml 100g 200g	— 30日 30日	<b>500</b>	リンゴワタムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 カイガラムシ類 輪紋病・炭そ病 すす斑病・すす点病 黒星病・斑点落葉病 褐斑	※10 アビオンE 1,500倍	①降雨が多い場合は、展着剤に代えて、固着性展着剤アビオンE 1,500倍を使用しても良い。
／	<b>8</b> 6月下旬	— 28 11+7	展着剤※10 10,000倍 エクシレルSE 5,000倍 ナリアWDG 2,000倍	10ml 20ml 50g	— 前日 前日	<b>500</b>	シンクイムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ 斑点落葉病・黒星病 輪紋病・炭そ病 すす斑病・すす点病 褐斑	※10 アビオンE 1,500倍	①シナノリップは、シンクイムシ類被害が多い。⑩サイハロン水和剤2,000倍を特別散布し、第7回から第9回までの散布を10日間隔としてよい。 ②褐斑病の発生が心配な場合は、7月初旬にユニックス顆粒水和剤の2,000倍を特別散布する。 ③ハダニ類の発生が多い場合は、アカリタッチ乳剤1,000倍を加用散布又は特別散布する。展着剤不要。 ※高温時並びに展着剤使用で、薬害が発生するため注意する。
／	<b>9</b> 7月上中旬	— 23 3A M1 M4	展着剤※11 10,000倍 ダニゲッターフロアブル 2,000倍 ⑩イカズチWDG※12 1,500倍 キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 オーソサイド水和剤 80 800倍	10ml 50ml 66g 100g 125g	— 前日 前日 14日 前日	<b>600</b>	ハダニ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類 斑点落葉病・褐斑病 輪紋病・炭そ病 黒星病	※11 ササラ 3,000倍 ※12 ⑩スカウトフロアブル 2,000倍	①ナシヒメコン使用の場合は第2回目の取り付けを7月末までに行う。(50本/10a当り) ②展着剤を機能性展着剤ササラ3,000倍に代えると、濡れ性・乾きが向上し、汚れが軽減される。 ③ダニゲッターフロアブルは、水稻の開花期に飛散すると不稔を生じるため、散布が遅れないよう注意する。
／	<b>10</b> 7月下旬	— 11 M7 20 4A	展着剤 10,000倍 プリントフロアブル 25 2,000倍 ベルコートフロアブル 1,500倍 マイトコーネフロアブル※13 1,000倍 ⑩バリアード顆粒水和剤 4,000倍	10ml 50ml 66ml 100ml 25g	— 前日 前日 前日 前日	<b>600</b>	黒星病・斑点落葉病 すす斑病・すす点病 輪紋病・炭そ病 褐斑 ハダニ類 キンモンホソガ シンクイムシ類	※13 カネマイトフロアブル 1,000倍	①早生種が無い場合は、マイトコーネフロアブルに代えて、カネマイトフロアブルを使用してもよい。 ②ナシヒメコン設置園(モモシンクイガ対策)又は、シンクイムシ類の発生が心配される園は、⑩バリアード顆粒水和剤を2,000倍で使用する。 ③カイガラムシ類発生園は、コルト顆粒水和剤3,000倍を加用散布する。
／	<b>11</b> 8月上中旬	— 28 M4 12C	展着剤※14 10,000倍 サムコルフロアブル 10 2,500倍 オーソサイド水和剤 80 800倍 オマイト水和剤 750倍	10ml 40ml 125g 133g	— 前日 前日 3日	<b>600</b>	シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ 黒星病・斑点落葉病 すす斑病・すす点病 輪紋病・炭そ病 ハダニ類	※14 スカッシュ 1,000倍	①降雨が多い場合は、炭そ病対策として、第11・12回目の中間で、オーソサイド水和剤800倍を特別散布する。
／	<b>12</b> 8月下旬	— 3A M4+P7	展着剤※11 10,000倍 アーデントフロアブル 2,000倍 アリエッティC水和剤 800倍 ※必ず、フロアブル剤を溶かしきってから、アリエッティC水和剤を混用する。	10ml 50ml 125g	— 前日 前日	<b>500</b>	シンクイムシ類 ハマキムシ類 黒星病・斑点落葉病 すす斑病・すす点病 褐斑	※11 ササラ 3,000倍	①ハダニ類の発生が多い場合はダニオーテフロアブル2,000倍を加用散布してもよい。ただし、散布前後2週間はキノンドーなど銅剤の散布を行わない。
／	<b>13</b> 9月上中旬	— M7 4A	展着剤※11 10,000倍 ベルコートフロアブル※15 1,500倍 ⑩バリアード顆粒水和剤 2,000倍	10ml 66ml 50g	— 前日 前日	<b>500</b>	斑点落葉病・黒星病 すす斑病・すす点病 褐斑 (シンクイムシ類)	※11 ササラ 3,000倍 ※15 ベルクート水和剤 1,000倍	①シンクイムシ類の発生が多い場合は、⑩バリアード顆粒水和剤2,000倍を加用散布する。 ②炭そ病の発生が多い場合は、ベルコートフロアブルに代えて、オーソサイド水和剤800倍を使用する。
／	<b>特</b> 9月下旬	— M11	展着剤※11 10,000倍 ストライド顆粒水和剤 1,500倍	10ml 66g	— 前日	<b>500</b>	黒斑点落葉病 すす斑病・すす点病 褐斑	※11 ササラ 3,000倍	①第13回と第14回の散布期間が空く場合は、特別散布する。 ②リンゴワタムシ及びカイガラムシ類発生園は、トランスフォームフロアブル2,000倍を加用散布する。 ③ストライド顆粒水和剤は、高温時に使用すると薬害が発生する可能性があるため注意する。
／	<b>14</b> 10月上旬	— M11	展着剤※11 10,000倍 ストライド顆粒水和剤 1,500倍	10ml 66g	— 前日	<b>500</b>	黒斑点落葉病 すす斑病・すす点病	※11 ササラ 3,000倍	①りんごワタムシ(メンチュウ)の発生園ではダントツ水溶剤3,000倍を加用散布する。主幹部へもかかるよう散布する。 ②ネズミの対策として⑩ヤソヂオンを使用する。(11月降雪前と雪解後)

# 令和7年度 もも病害虫防除基準

㊦は劇物のため購入の際にはハンコが必要となります。 ※ネクタリンとの混植園は、ネクタリン病害虫防除基準を使用ください。〔性フェロモン剤コンフューザーMM設置園用〕

散布月日	散布時期	FRAC 又は IRAC コード	散布薬剤 (調合順序・使用倍率)		水100ℓ 当り 調 合 量	収穫前日数		10a当り 散 布 量 (ℓ)	対象病害虫名	代替可能薬剤	散布管理上の注意事項
						もも	ネクタリン				
/	<b>1</b> 3月中旬 (発芽前)	NC M2	スプレーオイル※1 石灰硫黄合剤※2	50倍 10倍	(水88ℓ) 2ℓ 10ℓ	発芽前 発芽前	発芽前 発芽前	350	ウメシロカイガラムシ 越冬病害虫 縮葉病	※1 ハーベストオイル 50倍 ※2 トレノックスフロアブル 500倍	①コスカシバの発生がある場合は、発芽前にガットキラー乳剤100倍を主枝・主幹にたっぷり散布する。 ②せん孔細菌病の発生が心配される場合は、4月初旬にICボルドー412の33倍又は、㊦4-12式ボルドー液又は、ムッシュボルドーDF500倍を特別散布する。
/	<b>2</b> (4月初旬頃) 開花直前	- M1	固着性展着剤アビオンE※3 ICボルドー412※4	1,500倍 33倍	66ml 3kg	- -	- -	350	せん孔細菌病	※3 K.Kステッカー 3,000倍 (注)K.Kステッカーは、必ず最後に調合する。 ※4 4-12式ボルドー液 (生石灰 1,200g) ㊦硫酸銅 400g	①住宅・駐車場の近くで、汚れが心配される場合は、ボルドー液に代えてムッシュボルドーDF500倍を使用してもよい。
/	<b>3</b> (4月中旬頃) 満開後頃	- 18 29 41+25	固着性展着剤アビオンE※3 ロムダンフロアブル※5 ウララDF アグリマイシン-100	1,500倍 3,000倍 4,000倍 1,500倍	66ml 33ml 25g 66g	- 7日 14日 60日	- 7日 7日 登録無	400	ハマキムシ類 アブラムシ類 せん孔細菌病	※5 カスケード乳剤 4,000倍	①うどんこ病・灰星病(花腐れ)・灰色かび病の発生が心配される場合は、アンビルフロアブル1,000倍を加用散布する。 ②アブラムシ類の多発が心配される場合は、ウララDFを2,000倍で使用する。
/	4月末～5月初旬頃 コンフューザーMM取り付け 10a 120本 (本数が基準に満たないと、効果が発揮されない)										
/	<b>4</b> (4月下旬頃) 70～80%落花10日後	- 7 16 25	固着性展着剤アビオンE※3 ㊦カナメフロアブル アプロードフロアブル アグレプト水和剤※6	1,500倍 4,000倍 1,000倍 1,000倍	66ml 25ml 100ml 100g	- 前日 14日 60日	- 前日 7日 登録無	450	うどんこ病 黒星病 カイガラムシ類 せん孔細菌病	※3 K.Kステッカー 3,000倍 (注)K.Kステッカーは、必ず最後に調合する。	①早生種では、収穫前日数に注意し散布する。 ②せん孔細菌病の発生が心配される場合は、4・5・6・7回のそれぞれの中間で、展着剤ササラ3,000倍+クプロシールド1,000倍+薬害防止のため、必須クレフノン100倍を特別散布してもよい。
/	<b>5</b> 5月上中旬頃	- 4C M2 41	固着性展着剤アビオンE※3 トランスフォームフロアブル コロナフロアブル※7 マイコシールド	1,500倍 2,000倍 400倍 1,500倍	66ml 50ml 250ml 66ml	- 7日 -	- 3日 -	450	カイガラムシ類 アブラムシ類 うどんこ病 黒星病 せん孔細菌病	※6 マイコシールド 1,500倍	
/	<b>6</b> 5月中下旬	- M3 -	固着性展着剤アビオンE※3 トレノックスフロアブル ICジンク水和剤 ㊦ダイアジノン水和剤※8	1,500倍 500倍 1,000倍 1,000倍	66ml 200ml 100g 100g	- 7日 前日	- 30日 発病前～発病初期 21日	500	黒星病 せん孔細菌病 アブラムシ類 モモハモグリガ カイガラムシ類・ケムシ類	※7 イオウフロアブル 500倍 ※8 ㊦オリオン水和剤 1,000倍	①うどんこ病の発生が心配される場合は、コロナフロアブル400倍又は、イオウフロアブル500倍を加用散布する。 ②ICジンク水和剤は、高温時に葉の薬害が発生する場合がありますため、注意する。
/	<b>7</b> 6月上旬	- M3 28 41	固着性展着剤アビオンE※3 トレノックスフロアブル エクシレルSE※9 マイコシールド※10	1,500倍 500倍 5,000倍 1,500倍	66ml 200ml 20ml 66g	- 7日 前日 21日	- 30日 前日 28日	500	黒星病 モモハモグリガ シンクイムシ類 ハマキムシ類 せん孔細菌病	※9 サムコフロアブル10 5,000倍 ※10 ㊦デランフロアブル 600倍	①マイコシールドは収穫前日数が長いので、早生種は㊦デランフロアブル600倍に代えて散布する。
/	<b>8</b> 6月中下旬	- M9 4A	展着剤 ㊦デランフロアブル ㊦バリアード顆粒水和剤	10,000倍 600倍 4,000倍	10ml 166ml 25g	- 7日 前日	- 14日 3日	500	せん孔細菌病 灰星病・黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 アブラムシ類		①ハダニ類の発生が心配される場合は、コロマイト乳剤1,000倍(収穫7日前まで)を加用散布する。 ②カイガラムシ類の発生がある場合は、コルト顆粒水和剤2,000倍を加用散布する。

# 令和7年度 もも病害虫防除基準

〔性フェロモン剤コンフューザーMM設置園用〕

／	<b>9</b> 7月上旬	— 23 11+7 1B	展着剤 モベントフロアブル ナリアWDG※11 (㊟ダイアジノン水和剤34)	10,000倍 2,000倍 2,000倍 1,000倍	10ml 50ml 50g 100g	— 7日 前日 前日	— 7日 前日 21日)	500	カイガラムシ類 アブラムシ類 ハダニ類 ホモプシス腐敗病 灰星病 (シンクイムシ類)	※11 フリントフロアブル25 2,000倍	①シンクイムシ類の発生が心配される場合は、㊟ダイアジノン水和剤 1,000 倍を加用散布する。ネクタリンは収穫前日数が 21 日と長いので注意する。
／	<b>10</b> 7月中下旬	— M7 3A 1B	展着剤 ベルコートフロアブル ㊟イカズチWDG※12 (㊟ダイアジノン水和剤34)	10,000倍 2,000倍 1,500倍 1,000倍	10ml 50ml 66g 100g	— 前日 前日 前日	— 前日 前日 21日)	500	ホモプシス腐敗病 灰星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 モモハモグリガ (カイガラムシ類)	※12 ㊟スカウトフロアブル 2,000倍	①無袋栽培は、展着剤アプローチBIの1,000倍を使用する。 ②降雨が多い場合は、ベルコートフロアブルを1,500倍で使用する。 ③カイガラムシ類の発生がある場合は、㊟ダイアジノン水和剤 1,000 倍を加用散布する。 ④ハダニ類の発生が多い場合は、マイトコーネフロアブル1,000倍を加用散布する。(もも収穫前日・収穫ネク3日)
／	除袋後防除 (無袋は収穫10日前)	— 11 3A	●必ず実施する。 アプローチBI スクレアフロアブル※13 アーデントフロアブル	1,000倍 3,000倍 2,000倍	100ml 33ml 50ml	— 前日 前日	— 前日 前日	500	灰星病 ホモプシス腐敗病 モモハモグリガ ミカンキロアザミウマ ハマキムシ類 シンクイムシ類	※13 ミギワ20フロアブル 4,000倍	
／	収穫開始2日前防除	— 3 28	●必ず実施する。 アプローチBI オンリーワンフロアブル※14 エクシレルSE※15	1,000倍 2,000倍 5,000倍	100ml 50ml 20ml	— 前日 前日	— 前日 前日	500	灰星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	※14 オーシャインフロアブル 2,000倍 ※15 サムコルフロアブル10 5,000倍 又はディアナWDG 5,000倍	
／	<b>特</b> 8月初上旬 (極晩生種)	— M5 5	展着剤 ダコニール1000※16 ディアナWDG	10,000倍 1,000倍 5,000倍	10ml 100ml 20g	— 前日 前日	— 前日 前日	500	灰星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	※16 オンリーワンフロアブル 2,000倍	①西王母、黄ららのきわみ等、9月中旬以降から収穫になる品種は、8月中下旬に下記の定期薬剤散布を行う。 展着剤 10,000 倍+ダコニール 1000 の 1,000 倍 (収穫前日まで)又は㊟カナメフロアブル 4,000 倍 (収穫前日まで) +㊟ダイアジノン水和剤 1,000 倍 (収穫前日まで)を散布する。 なお、せん孔細菌病の葉への感染が多い場合は、スターナ水和剤 1,000倍(収穫7日前まで)を加用散布する。 ※ダコニール 1000は除袋直後の場合、葉害の発生があるため、十分注意する。
／	<b>特</b> 川中島白桃収穫 終了後、速やかに (カイガラムシ類防除)	— 9B	展着剤 コルト顆粒水和剤	10,000倍 2,000倍	10ml 50g	— 前日	— 前日	500	カイガラムシ類		①極晩生種等、収穫中の品種がある場合は、散布後、24時間は収穫できない。
／	<b>11</b> 9月上中旬 (収穫後) (せん孔細菌病防除)	M1	固着性展着剤アビオンE※3 ICボルドー412※4	1,500倍 33倍	66ml 3kg	— —	— —	500	せん孔細菌病	※3 K.Kステッカー 3,000倍 (注)K.Kステッカーは、必ず最後に調合する。	①コスカシバの食入防止のためフェニックフロアブル 4,000 倍を加用散布してもよい。
／	<b>12</b> 9月下旬 (せん孔細菌病防除)	— M1	固着性展着剤アビオンE※3 ICボルドー412※4	1,500倍 33倍	66ml 3kg	— —	— —	500	せん孔細菌病	※4 4-12式ボルドー液 (生石灰 1,200g) ㊟硫酸銅 400g)	①㊟は、せん孔細菌病が多かった場合、必ず実施する。 ②次年度、せん孔細菌病の多発が心配される場合は、10月下旬にもう一度、4回目のボルドー液を散布する。(固着性展着剤使用) ③12回以降は、ムッシュボルドーDF 500倍を使用してもよい。(固着性展着剤使用)
／	<b>特</b> 10月上中旬 (せん孔細菌病防除)	— M1	固着性展着剤アビオンE※3 ICボルドー412※4	1,500倍 33倍	66ml 3kg	— —	— —	500	せん孔細菌病		

# 令和7年度 ネクタリン病害虫防除基準〔もも・ネクタリン混植園用〕

㊦は劇物のため購入の際にはハンコが必要となります。

※ももとの混植園は、ネクタリン病害虫防除基準を使用ください。〔性フェロモン剤コンフューザーMM設置園用〕

散布月日	散布時期	FRAC 又は IRAC コード	散布薬剤 (調合順序・使用倍率)	水100ℓ 当り 調 合 量	収穫前日数		10a当り 散 布 量 (ℓ)	対象病害虫名	代替可能薬剤	散布管理上の注意事項
					ネクタリン	もも				
／	<b>1</b> 3月中旬 (発芽前)	NC M2	スプレーオイル※1 50倍 石灰硫黄合剤※2 10倍	(水88ℓ) 2ℓ 10ℓ	発芽前 発芽前	発芽前 発芽前	350	ウメシロカイガラムシ 越冬病害虫 縮葉病	※1 ハーベストオイル 50倍 ※2 トレノックスフロアブル 500倍	①コスカシバの発生がある場合は、発芽前にガットキラー乳剤100倍を主枝・主幹にたっぷり散布する。 ②せん孔細菌病の発生が心配される場合は、4月初旬にICボルドー412の33倍又は、ムッシュボルドーDF500倍を特別散布する。
／	<b>2</b> (4月初旬頃) 開花直前	— M1	固着性展着剤アビオンE※3 1,500倍 ICボルドー412 33倍	66ml 3kg	— —	— —	350	せん孔細菌病	※3 K.Kステッカー 3,000倍 (注)K.Kステッカーは、必ず最後に調合する。	①住宅・駐車場の近くで、汚れが心配される場合は、ボルドー液に代えてムッシュボルドーDF500倍を使用してもよい。
／	<b>3</b> (4月中旬頃) 満開後頃	— 18 29 41	固着性展着剤アビオンE※3 1,500倍 ロムダンフロアブル※4 3,000倍 ウララDF 4,000倍 マイコシールド 1,500倍	66ml 33ml 25g 66g	— 7日 7日 28日	— 7日 14日 21日	400	ハマキムシ類 アブラムシ類 せん孔細菌病	※4 カスケード乳剤 4,000倍	①うどんこ病・灰星病(花腐れ)・灰色かび病の発生が心配される場合は、アンビルフロアブル1,000倍を加用散布する。 ②アブラムシ類の多発が心配される園は、ウララDFを2,000倍で使用する。
／	4月末～5月初旬頃 コンフューザーMM取り付け 10a 120本(本数が基準に満たないと、効果が半減する)									
／	<b>4</b> (4月下旬頃) 70～80%落花10日後	— 7 16 41	固着性展着剤アビオンE※3 1,500倍 ㊦カナメフロアブル 4,000倍 アプロードフロアブル 1,000倍 マイコシールド 1,500倍	66ml 25ml 100ml 66g	— 前日 7日 28日	— 前日 14日 21日	450	黒星病 カイガラムシ類 せん孔細菌病	※3 K.Kステッカー 3,000倍 (注)K.Kステッカーは、必ず最後に調合する。	①せん孔細菌病の発生が心配される場合は、4・5・6・7回のそれぞれの間で、展着剤ササラ3,000倍+クプロシールド1,000倍+薬害防止のため、必須クレフノン100倍を特別散布してもよい。
／	<b>5</b> 5月上中旬頃	— 4C M2 41	固着性展着剤アビオンE※3 1,500倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍 コロナフロアブル※5 400倍 マイコシールド 1,500倍	66ml 50ml 250ml 66g	— 3日 — 28日	— 7日 — 21日	450	カイガラムシ類 アブラムシ類 黒星病 せん孔細菌病	※5 イオウフロアブル 500倍 ※6 ㊦オリオン水和剤 1,000倍	
／	<b>6</b> 5月中下旬	— M3 — 1B	固着性展着剤アビオンE※3 1,500倍 トレノックスフロアブル 500倍 ICジンク水和剤 1,000倍 ㊦ダイアジノン水和剤※6 1,000倍	66ml 200ml 100g 100g	— 30日 21日	— 7日 前日	500	黒星病 せん孔細菌病 アブラムシ類 モモハモグリガ カイガラムシ類 ケムシ類		①もも混植園でうどんこ病の発生が心配される場合は、コロナフロアブル400倍又は、イオウフロアブル500倍を加用散布する。 ②ICジンク水和剤は、高温時に葉の薬害が発生する可能性があるため、注意する。
／	<b>7</b> 6月上旬	— M9 28 41	展着剤 ㊦デランフロアブル 10,000倍 エクシレルSE※7 600倍 (マイコシールド) 5,000倍 1,500倍	10ml 166ml 20ml 66g	— 14日 前日 28日	— 7日 前日 21日)	500	黒星病 モモハモグリガ シンクイムシ類 ハマキムシ類 (せん孔細菌病)	※7 サムコルフロアブル10 5,000倍	①せん孔細菌病の発生が多い場合はマイコシールド1,500倍(収穫28日前まで)を加用散布する。ただし収穫前規制に注意する。
／	<b>8</b> 6月中下旬	— M7 4A	展着剤 ベルコートフロアブル 10,000倍 ㊦バリアード顆粒水和剤 2,000倍 4,000倍	10ml 50ml 25g	— 前日 3日	— 前日 前日	500	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 アブラムシ類		①せん孔細菌病の発生が多い場合は、㊦デランフロアブル600倍(収穫14日前まで)又はスターナ水和剤1,000倍(収穫7日前まで)を加用散布する。ただし、収穫前規制に注意する。 ②降雨が多い場合は、ベルコートフロアブルを1,500倍で使用する。 ③ハダニ類の発生が心配される場合は、コロマイト乳剤1,000倍(収穫7日前まで)を加用散布する。 ④カイガラムシ類の発生がある場合は、コルト顆粒水和剤2,000倍を加用散布する。

# 令和7年度 ネクタリン病害虫防除基準〔もも・ネクタリン混植園用〕

〔性フェロモン剤コンフューザーMM設置園用〕

／	<b>9</b> 7月上旬	— 23 11+7 1B	展着剤 モベントフロアブル 10,000倍 ナリアWDG※8 2,000倍 (Ⓜダイアジノン水和剤34 1,000倍)	10ml 50ml 50g 100g	— 7日 前日 21日	— 7日 前日 (前日)	500	カイガラムシ類 アブラムシ類 ハダニ類 ホモプシス腐敗病 灰星病 (シンクイムシ類)	※8 フリントフロアブル25 2,000倍	①シンクイムシ類の発生が心配される場合は、Ⓜダイアジノン水和剤1,000倍(収穫21日前まで)を加用散布する。ただし収穫前規制に注意する。
／	<b>10</b> 7月中下旬	— M7 3A	展着剤 ベルコートフロアブル 10,000倍 ⓂイカズチWDG※9 1,500倍	10ml 50ml 66g	— 前日 前日	— 前日 前日	500	ホモプシス腐敗病 灰星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 モモハモグリガ	※9 Ⓜスカウトフロアブル 2,000倍	①無袋栽培は、展着剤アプローチBIの1,000倍を使用する。 ②ハダニ類の発生が多い場合は、マイトコーネフロアブル1,000倍を加用散布する。(収穫ネク3日・もも収穫前日)
／	除袋後防除 (無袋は収穫10日前)	— 11 3A	●必ず実施する。 アプローチBI 1,000倍 スクレアフロアブル※10 3,000倍 アーデントフロアブル 2,000倍	100ml 33ml 50ml	— 前日 前日	— 前日 前日	500	灰星病 ホモプシス腐敗病 モモハモグリガ ミカンキイロアザミウマ	※10 ミギワ20フロアブル 4,000倍	
／	収穫開始 2日前防除	— 3 28	●必ず実施する。 アプローチBI 1,000倍 オンリーワンフロアブル※11 2,000倍 エクシレルSE※12 5,000倍	100ml 50ml 20ml	— 前日 前日	— 前日 前日	500	ハマキムシ類 シンクイムシ類	※11 オーシャインフロアブル 2,000倍 ※12 サムコルフロアブル10 5,000倍 又はディアナWDG 5,000倍	
／	<b>特</b> 川中島白桃収穫 終了後、速やかに (カイガラムシ類防除)	— 9B	展着剤 コルト顆粒水和剤 10,000倍 2,000倍	10ml 50g	— 前日	— 前日	500	カイガラムシ類		①ファンタジア・秀峰等、収穫中の品種がある場合は、散布後、24時間は収穫できない。
／	<b>11</b> 9月上中旬 (収穫後) (せん孔細菌病防除)	— M1	固着性展着剤アビオンE※3 1,500倍 ICボルドー412 33倍	66ml 3kg	— —	— —	500	せん孔細菌病		①コスカシバの食入防止のためフェニックフロアブル4,000倍を加用散布してもよい。
／	<b>12</b> 9月下旬 (せん孔細菌病防除)	— M1	固着性展着剤アビオンE※3 1,500倍 ICボルドー412 33倍	66ml 3kg	— —	— —	500	せん孔細菌病	※3 K.Kステッカー 3,000倍 (注)K.Kステッカーは、必ず最後に調合する。	①Ⓜは、せん孔細菌病が多かった場合、必ず実施する。 ②次年度、せん孔細菌病の多発が心配される場合は、10月下旬にもう一度、4回目のボルドー液を散布する。(固着性展着剤使用) ③12回以降は、ムッシュボルドーDF 500倍を使用してもよい。(固着性展着剤使用)
／	<b>特</b> 10月上中旬 (せん孔細菌病防除)	— M1	固着性展着剤アビオンE※3 1,500倍 ICボルドー412 33倍	66ml 3kg	— —	— —	500	せん孔細菌病		



# 令和7年度 ぶどう病害虫防除基準

㊦は劇物のため購入の際にはハンコが必要となります。

散布月日	散布時期	FRAC 又は IRAC コード	散布薬剤 (調合順序・使用倍率)	水100ℓ り 調 合 量	収穫前 日 数	10a当り 散 布 量	対象病害虫名	代替可能薬剤	散布管理上の注意事項
/	<b>1</b> 4月上中旬	— M2	展着剤 石灰硫黄合剤 10,000倍 20倍	(水95ℓ) 10ml 5ℓ	— 発芽前	<b>200</b>	(黒とう病) ハモグリダニ ブドウサビダニ		①カイガラムシ類・クビアカスカシバ対策として、特に丁寧に主幹・主枝の粗皮剥ぎを実施する。 ②ブドウトラカミキリ・ブドウスカシバの被害枝を剪除し、焼却又は土中に埋める。 ③ハモグリダニの発生が心配される場合は、石灰硫黄合剤を10倍で使用する。 ④黒とう病が多い場合は、ベンレート水和剤200倍を加用散布する。その際は、溶かしたベンレート水和剤を直前に加用する。
/	<b>2</b> 発芽直前 (4月中・下旬)	— 16 M9	展着剤 アプロードフロアブル ㊦デランフロアブル 10,000倍 1,000倍 200倍	10ml 100ml 500ml	— 30日 休眠期	<b>200</b>	カイガラムシ類 黒とう病		①ブドウトラカミキリの発生がある場合は、ガットキラー乳剤100倍を加用散布してもよい。 ②カイガラムシ類対策として、散布の際は、主幹・主枝、特に芽座にしっかりと掛ける。
/	<b>3</b> 展葉2～3枚期	— M1 1B	展着剤 キノンドー顆粒水和剤※1 (㊦ダイアジノン水和剤34) 10,000倍 1,000倍 1,000倍	10ml 100g 100g	— 45日 30日)	<b>250</b>	黒とう病 (カイガラムシ類) (カメムシ類)	※1 ICボルドー66D 50倍	①黒とう病の発生が心配ない場合は、散布しなくてもよい。 ②カイガラムシ類・カメムシ類の発生が心配される場合は、㊦ダイアジノン水和剤1,000倍を加用散布する。 なお、カイガラムシ類対策として、散布の際は、主幹・主枝、特に芽座にしっかりと掛ける。
/	<b>特</b> カイガラムシ防除 (4月下旬～5月初旬)	4A	アルバリン顆粒水溶剤	—	1樹当り (水40ml) 40g	— 幼果期 30日	カイガラムシ類		1樹当り水40mlに薬剤40gをよく溶かし、主幹部を縦50cm以上、環状に粗皮削りし、当日～翌日にハケで塗布する。塗布後48時間は、降雨にあわないよう配慮する。 ※使用方法が特殊なため、不明な点は果樹技術員まで相談下さい。
/	<b>4</b> 黒とう病防除 展葉5枚期 (5月上旬)	— M3	展着剤 トレノックスフロアブル※1 10,000倍 1,000倍	10ml 100ml	— 60日	<b>250</b>	黒とう病	※1 ICボルドー66D 50倍	
/	<b>5</b> 展葉8～9枚 (5月中旬)	— M3	展着剤 ペンコゼブ水和剤 10,000倍 1,000倍	10ml 100g	— 45日	<b>250</b>	べと病 つる割病 晩腐病・黒とう病 灰色かび病		①開花直前防除まで、散布間隔が空いてしまう場合は、キノンドー顆粒水和剤1,000倍を特別散布する。
/	種あり巨峰 (展葉8～9枚)	— —	アプローチBI フラスター液剤 750倍 750倍	(水150ℓ) 200ml 200ml	— —	<b>150</b>			①樹勢が強い場合は500倍(水150ℓに300ml(3本))で使用する。
/	種なしぶどう 開花前14日 ～開花7日前まで	—	アグレプト液剤 1,000倍	100ml		<b>200</b>			①種なしにするぶどうは、必ず散布を行う。なお散布が遅れると、種入りしやすいため、期間内で早めの散布を心掛ける。
種なしぶどう着粒安定・新梢伸長抑制(房型向上)対策…展葉9～11枚期 フラスター液剤 1,000～1,500倍 10a当り 100～150ℓ									
/	<b>6</b> 開花直前	— 3A M4	展着剤 アーデントフロアブル※2 オーソサイド水和剤 10,000倍 2,000倍 800倍	10ml 50ml 125g	— 前日 30日	<b>350</b>	ヨコバイ類 スリップス類 灰色かび病 べと病・晩腐病 白腐病	※2 ㊦イカズチWDG 1,500倍	①うどんこ病・灰色かび病の発生が心配される場合は、オンリーワンフロアブル2,000倍を加用散布する。

# 令和7年度 ぶどう病害虫防除基準

／	<b>7</b> 落花直後	— 14 7 4 A M 3	展着剤 ⑩パダンSG水溶剤 10,000倍 ⑩カナメフロアブル※3 1,500倍 アドマイヤー顆粒水和剤 4,000倍 ペンコゼブ水和剤※4 10,000倍 1,000倍	10ml 66g 25ml 10g 100g	— 21日 前日 21日 45日	<b>350</b>	スカシバ類 カとう病 とんこび病 灰色かび病 べと 晩腐病・白腐病 スリップス類	※3 パレード15フロアブル 2,000倍 ※4 ゴーベックエニベル顆粒水和剤 750倍	① ⑩パダンSG水溶剤 1,500倍を散布の際は、手散布で主幹・主枝にたっぷり掛ける。なお、大粒種ぶどう（デラウェア等小粒種は登録無し）のみの登録のため、農薬の飛散に十分注意する。
／	<b>8</b> 小豆大頃 落花10日以内	11+27 52 5	ホライズンドライフロアブル 2,500倍 ミギワ20フロアブル 2,000倍 ディアナWDG 10,000倍	40g 50ml 10g	21日 前日 前日	<b>300</b>	べと腐病 ととう病 スリップス類	※5 オーソサイド水和剤80 800倍	①葉斑が残ることがあるので、散布が遅れないようにする。 ②黒とう病の発生が心配な場合は、ホライズンドライフロアブル・ミギワ20フロアブルに代えて、オーソサイド水和剤を使用してもよい。ただし、農薬汚れは増加するため、遅れないよう散布する。
／	<b>9</b> 前回散布10日以内	11 40	スクレアフロアブル 2,000倍 レーバスフロアブル 2,000倍	50ml 50ml	前日 7日	<b>250</b>	晩褐べ 腐斑と 病病		①袋かけ前に必ず散布する。（散布時期が早まっても可） ②スリップス類の発生が心配される場合は、コルト顆粒水和剤3,000倍を加用散布してもよい。
／	<b>特</b> (7月上中旬)	21 3	ライメイフロアブル※6 3,000倍 オンリーワンフロアブル 2,000倍	33ml 50ml	14日 前日	<b>250</b>	べと腐病 灰色かび病	※6 ランマンフロアブル 1,000倍	①晩腐病・さび病の発生が心配される場合、又は冷蔵シャインマスカットを出荷する場合は必ず散布する。 ②スリップス類の発生が心配される場合は、⑩スカウトフロアブル2,000倍を加用散布してもよい。 ③散布間隔が空く場合は必ず散布する。
／	<b>10</b> 袋掛け後	14 23 M1 —	⑩パダンSG水溶剤※7 1,500倍 (モベントフロアブル 2,000倍 ムッシュボルドーDF 500倍 固着性展着剤K.Kステッカー※8 3,000倍 (注)K.Kステッカーは必ず最後に調合する。	66g 50ml 200g 33ml	21日 7日) — —	<b>350</b>	スカシバ類 スリップス類 カイガラムシ類 べとび病 さび病 (晩腐病) (褐斑病)	※7 エクシレルSE 5,000倍 ※8 アビオンE 1,500倍 (注)アビオンEは最初に調合する。	①パダンSG水溶剤は、クビアカスカシバ・スカシバ類対策として散布するが、散布の際は、手散布で主幹・主枝にたっぷり掛ける。ただし、大粒種ぶどう（デラウェア等小粒種は登録なし）のみの登録のため、農薬飛散に十分注意する。 ②クビアカスカシバの被害の無い場合は、パダンSG水溶剤に代えて、エクシレルSE5,000倍を使用してもよい。ICボルドー66D並びに4-4式ボルドー液との混用の場合は、直前混用とする。 ③クビアカスカシバの虫フンが出始めるので、被害部にロビンフット(スプレー式)を散布してもよい。 ④カイガラムシ類の発生が多い園は、袋掛け後防除に、モベントフロアブルを加用散布する。散布の際は、主幹・主枝・特に芽座にしっかりと掛ける。なお、ICボルドー・ボルドー液との混用及び近接散布(前後1週間)はできない。
／	<b>11</b> 7月中下旬 (前回散布14日以内)	M1 —	ICボルドー66D※9 50倍 固着性展着剤K.Kステッカー※8 3,000倍 (注)K.Kステッカーは必ず最後に調合する。	2kg 33ml	— —	<b>350</b>	べとび病 さび病 黒とう病 (褐斑病)	※9 4-4式ボルドー液 (生石灰 400g) (⑩硫酸銅 400g) ※8 アビオンE 1,500倍 (注)アビオンEは最初に調合する。	①スリップス類の発生が心配される場合は、第11回又は第12回目にアーデントフロアブル2,000倍を加用散布する。 ②カイガラムシ類の発生が多い園は、第11回に、トランスフォームフロアブル2,000倍を加用散布する。散布の際は、主幹・主枝・特に芽座にしっかりと掛ける。 ③ブドウトラカミキリの発生が心配される場合は、第12回目に、アルバリン顆粒水溶剤2,000倍を加用散布する。
／	<b>12</b> 8月上旬	M1 —	ICボルドー66D※9 50倍 固着性展着剤K.Kステッカー※8 3,000倍 (注)K.Kステッカーは必ず最後に調合する。	2kg 33ml	— —	<b>350</b>	べとび病 さび病 黒とう病 (褐斑病)	※9 4-4式ボルドー液 (生石灰 400g) (⑩硫酸銅 400g) ※8 アビオンE 1,500倍 (注)アビオンEは最初に調合する。	
／	<b>13</b> 8月中下旬	M1 —	ICボルドー66D※9 50倍 固着性展着剤K.Kステッカー※8 3,000倍 (注)K.Kステッカーは必ず最後に調合する。	2kg 33ml	— —	<b>350</b>	べとび病 さび病 黒とう病 (褐斑病)	※10 ムッシュボルドーDF 500倍	
／	<b>特</b> 収穫後	M1 —	ICボルドー66D※10 50倍 固着性展着剤K.Kステッカー※8 3,000倍 (注)K.Kステッカーは必ず最後に調合する。	2kg 33ml	— —	<b>350</b>	べとび病 さび病 黒とう病 (褐斑病)		①秋季の病害まん延防止をし、越冬病原菌を低下させる。

# 令和7年度 プルーン・すもも病害虫防除基準

⑩は劇物のため購入の際にはハンコが必要となります。

[性フェロモン剤ナシヒメコン設置園用]

散布月日	散布時期	FRAC 又は IRAC コード	散布薬剤 (調合順序・使用倍率)	水100ℓ 当り 調合量	収穫前 日数	10a当り 散布量 (ℓ)	対象病害虫名	代替可能薬剤	散布上の注意事項
/	<b>1</b> 発芽前	- M2	展着剤 10,000倍 石灰硫黄合剤 20倍	(水95ℓ) 10ml 5ℓ	- 発芽前	<b>350</b>	越冬病害虫		①カイガラムシ類の発生が多い場合、3月初旬にスプレーオイル 30倍又は、ハーベストオイル50倍を手散布で枝・幹部にしっかりと散布する。 ②コスカシバの発生が多い場合は、3月初旬にガットキラー乳剤 100倍を主枝・主幹にたっぷり散布する。 ③ふくろみ病の発生が心配される場合は、石灰硫黄合剤を10倍で使用する。
/	4月中旬 ナシヒメコン取り付け 10a当り100本 (スモモヒメシンクイ対策)								
/	<b>特</b> 開花前	M1 -	ICボルドー412 33倍 固着性展着剤K.Kステッカー※1 3,000倍 (注)K.Kステッカーは必ず最後に調合する。	3kg 33ml	- -	<b>350</b>	黒斑病	※1 アビオンE 1,500倍 (注)アビオンEは最初に調合する。	
/	<b>2</b> 4月上旬 (開花始め)	- 2	アプローチBI(展着剤) 1,000倍 ロブラル水和剤 1,500倍	100ml 66g	- 前日	<b>350</b>	灰星病 灰色かび病		①アブラムシ類の発生が心配される場合はウララDF4,000倍を加用散布する。
/	<b>3</b> 4月下旬	- 4A 16 25	展着剤 10,000倍 ⑩モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (アプロードフロアブル 1,000倍 (アグレプト水和剤※2 1,000倍	10ml 50g 100ml 100g	- 前日 14日 30日	<b>400</b>	シンクイムシ類 アブラムシ類 (カイガラムシ類) (黒斑病)	※2 アグリマイシン 100 1,500倍	①カイガラムシ類の発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000倍を加用又は特別散布する。なお、手散布で枝・幹部にしっかりと薬液を掛ける。 ②降雨が多い場合は、ロブラル水和剤 1,500倍を加用散布する。 ③黒斑病の発生が心配される場合は、アグレプト水和剤 1,000倍(収穫30日前まで)を加用散布する。
/	<b>4</b> 5月上旬 ※前回10日後	- 1B	展着剤 10,000倍 ⑩ダイアジノン水和剤 34 1,000倍	10ml 100g	- 21日	<b>400</b>	シンクイムシ類		①黒斑病が心配される場合は、マイコシールド 2,000倍を加用散布する。
/	<b>5</b> 5月中旬 ※前回10日後	- 1B	展着剤 10,000倍 ⑩ダイアジノン水和剤 34※3 1,000倍	10ml 100g	- 21日	<b>400</b>	シンクイムシ類	※3 サイアノックス水和剤 1,000倍 又は⑩オリオン水和剤 1,000倍	①降雨が多い場合は、トレノックスフロアブル 500倍を加用散布する。
/	<b>6</b> 5月下旬 ※前回10日後	- 3A M3	展着剤※4 10,000倍 アーデントフロアブル 2,000倍 トレノックスフロアブル 500倍	10ml 50ml 200ml	- 前日 14日	<b>400</b>	シンクイムシ類 灰星病	※4 まくぴか 10,000倍	①展着剤をまくぴかにすると、均一に付着しやすくなり、乾きが早まり、液だまりが減少する。
/	<b>7</b> 6月上旬 ※前回10日後	- M7 4A	展着剤※4 10,000倍 ベルコートフロアブル 2,000倍 ⑩バリアード顆粒水和剤 2,000倍	10ml 50ml 50g	- 3日 前日	<b>400</b>	灰星病 シンクイムシ類 アブラムシ類	※4 まくぴか 10,000倍	

# 令和7年度 プルーン・すもも病害虫防除基準

[性フェロモン剤ナシヒメコン設置園用]

／	全品種 収穫前共通 防除	3 3A	オンリーワンフロアブル 2,000倍 (㊦スカウトフロアブル※5 2,000倍)	50ml 50ml	前日 前日)	350	灰星病 (シンクイムシ類)	※5 ディアナWDG 5,000倍	
／	<b>8</b> 6月中旬 ※前回10日後	— 11 3A	展着剤※4 10,000倍 プリントフロアブル 25 2,000倍 アーデントフロアブル 2,000倍	10ml 50ml 50ml	— 前日 前日	400	灰星病 シンクイムシ類	※4 まくぴか 10,000倍	
／	7月上中旬 第2回ナシヒメコン取り付け 10 a当り 50本 (スモモヒメシンクイ対策)								
／	<b>9</b> 6月下旬 ※前回10日後	— 3 23 3A	(展着剤 まくぴか 10,000倍 オーシャインフロアブル 3,000倍 (ダニゲッターフロアブル 2,000倍 ㊦イカズチWDG 1,500倍)	10ml 33ml 50ml 66g	(—) 前日 前日) 前日	400	灰星病 (ハダニ類) シンクイムシ類		①第9回以降、灰星病・シンクイムシ類の発生が心配される場合は、展着剤まくぴかを使用する。ただし、果粉溶脱等は増加する。 ②ハダニ類の発生が心配される場合は、ダニゲッターフロアブル 2,000倍を加用散布する。
／	<b>10</b> 7月上旬 ※前回10日後	— 28 M7	(展着剤 まくぴか 10,000倍 サムコルフロアブル 10 2,500倍 ベルコートフロアブル 2,000倍)	10ml 40ml 50ml	(—) 3日 3日	400	シンクイムシ類 灰星病		①雨が多い場合は第11回目にパレード15フロアブル3,000倍を(年2回まで)加用散布する。また、第13回目にオーシャインフロアブル3,000倍(年3回まで)を加用散布する。 ②ハダニ類の発生が心配される場合はダニオーテフロアブル 2,000倍(収穫前日まで・年1回)を加用散布する。
／	<b>11</b> 7月中旬 ※前回10日後	— 7 4A	(展着剤 まくぴか 10,000倍 (パレード15フロアブル※6 3,000倍 ㊦バリアード顆粒水和剤 2,000倍)	10ml 33ml 50g	(—) 前日 前日	400	(灰星病) シンクイムシ類	※6 ㊦カナメフロアブル 4,000倍	
／	<b>12</b> 7月下旬 ※前回10日後	— M7 3A	(展着剤 まくぴか 10,000倍 ベルコートフロアブル 2,000倍 ㊦イカズチWDG 1,500倍)	10ml 50ml 66g	(—) 3日 前日	400	灰星病 シンクイムシ類		
／	<b>13</b> 8月上旬 ※前回10日後	— 3 3A	(展着剤 まくぴか 10,000倍 (オーシャインフロアブル※7 3,000倍 アーデントフロアブル 2,000倍)	10ml 33ml 50ml	(—) 前日 前日	400	(灰星病) シンクイムシ類	※7 アンビルフロアブル 1,000倍	
／	<b>特</b> 8月中旬	— 7 28	(展着剤 まくぴか 10,000倍 パレード15フロアブル※6 3,000倍 サムコルフロアブル 10 2,500倍)	10ml 33ml 40ml	(—) 前日 3日	400	灰星病 シンクイムシ類	※6 ㊦カナメフロアブル 4,000倍	①晩生種で、収穫まで間が空く場合は、特別散布する。 ②9月中旬以降に収穫する品種がある場合は、9月初旬頃、アンビルフロアブル 1,000倍(年2回まで・収穫前日まで) + ㊦モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍を特別散布する。
／	<b>特</b> 9-10月	M1 —	ICボルドー412 33倍 固着性展着剤K.Kステッカー※1 3,000倍 (注)K.Kステッカーは必ず最後に調合する。	3kg 33ml	— —	400	黒斑病	※1 アビオンE 1,500倍 (注)アビオンEは最初に調合する。	①黒斑病の発生が多かった場合は、収穫終了後9～10月に特別散布する。2週間間隔で、2～3回実施する。なお、収穫中の品種に飛散しないよう十分注意する。 ②コスカシバ対策として、9月上中旬に、主幹・主枝にフェニックスフロアブル 4,000倍(収穫前日)を特別散布する。 ※収穫中の品種がある場合は、注意する。

# 令和7年度 あんず病害虫防除基準

㊦は劇物のため購入の際にはハンコが必要となります。

散布月日	散布時期	FRAC 又は IRAC コード	散布薬剤 (調合順序・使用倍率)	水100ℓ 当り 調合量	収穫前 日数	10a当り 散布量 (ℓ)	対象病害虫名	代替可能薬剤	散布上の注意事項
胴枯れ病防除の為地上1m以下へ白塗剤を塗布し年間を通してワラを巻く									
/	④ 3月初旬	NC	スプレーオイル※1 33倍	(水97ℓ) 3ℓ	発芽前	250	越冬病害虫 カイガラムシ類	※1 ハーベストオイル50倍	①コスカシバ対策として、ガットキラー乳剤 100倍を発芽前に特別散布してもよい。
/	1 発芽前 (3月中旬)	- M2	展着剤 10,000倍 石灰硫黄合剤 10倍	(水90ℓ) 10ml 10ℓ	- 発芽前	250	ハダニ類		①3月初旬の散布を行った場合は散布間隔を一週間以上空ける。
/	2 開花直前 (4月初旬頃)	M1 2	固着性展着剤アビオンE※2 1,500倍 ムッシュボルドーDF 500倍 ロブラール水和剤 1,500倍	66ml 200g 66g	- 葉芽発芽前 3日	300	かいよう病 灰星病	※2 KKステッカー 3,000倍 (注)K.Kステッカーは必ず最後に調合する。	
/	3 80%落花時 (4月中旬頃)	- 3 29 41	固着性展着剤アビオンE※3 1,500倍 アンビルフロアブル 1,000倍 ウララDF 4,000倍 マイコシールド※4 1,500倍	66ml 100ml 25g 66g	- 7日 7日 14日	400	うどんこ病 灰星病 アブラムシ類 かいよう病	※3 KKステッカー 3,000倍 又は一般展着剤10,000倍でもよい。 ※4 トレノックスフロアブル 500倍	①前回散布との間隔は、12日以内を厳守する。 ②昨年、かいよう病の発生が無かった園は、マイコシールドに代えてトレノックスフロアブル500倍を使用してもよい。 ③カイガラムシ類発生園は、アプロードフロアブル1,000倍を加用散布する。
/	4月下旬 スカシバコンL取り付け 10a当り100本								
/	4 落花15日後 (5月初旬頃)	- 11 3A	ソーゲン 500倍 ストロビードライフロアブル※5 2,000倍 ㊦スカウトフロアブル 2,000倍	200g (158ml) 50g 50ml	- 7日 14日	400	(ほう素欠乏) 黒星病 うどんこ病 アブラムシ類	※5 ミギワ20フロアブル 2,000倍	①昨年、かいよう病が見られた場合は、マイコシールド1,500倍(年2回まで)を加用散布する。 ②ソーゲン500倍は200g=158ml
/	④ 特	- 2 1A	ソーゲン 500倍 ロブラール水和剤 1,500倍 ㊦オリオン水和剤 1,000倍	200g (158ml) 66g 100g	- 3日 7日	400	(ほう素欠乏) 灰星病 アブラムシ類 ケムシ類		①第4回目と第5回目が空く場合は散布する。 ②アブラムシ類が見られる場合は、㊦モスピラン顆粒水溶剤4,000倍を特別散布する。 ③うどんこ病の発生が心配される場合はパレード15フロアブル3,000倍を加用散布する。

# 令和7年度 あんず病害虫防除基準

／	<b>5</b> 落花30日後 (5月中旬頃)	— 4A 3	ソ ー ゲ ン 500倍 ⑩モスピラン顆粒水溶剤※6 4,000倍 アンビルフロアブル 1,000倍	200g (158ml) 25g 100ml	— 前日 7日	400	(ほう素欠乏) アブラムシ類 黒星病	※6 コルト顆粒水和剤 2,000倍 又はトランスフォームフロアブル 2,000倍	
／	<b>6</b> 収穫前2週間 (6月初旬頃)	— 11	ソ ー ゲ ン 500倍 フロントフロアブル25※7 2,000倍	200g (158ml) 50ml	— 前日	400	(ほう素欠乏) 灰星病 炭そ病	※7 ストロビードライフロアブル 2,000倍 (収穫7日前まで)	①シンクイムシ類の発生が心配される場合は、⑩オリオン水和剤1,000倍を加用散布する。
／	<b>7</b> 収穫直前 (6月上旬頃)	— 3 4A	展 着 剤 10,000倍 オンリーワンフロアブル 2,000倍 ⑩バリアード顆粒水和剤※8 4,000倍	10ml 50ml 25g	— 前日 前日	400	灰色かび病 灰星病 黒星病 シンクイムシ類	※8 ダントツ水溶剤 4,000倍 (収穫3日前まで)	
／	<b>補</b> 新潟大実系 信州大実系	— 7	展 着 剤 10,000倍 パレード15フロアブル※9 3,000倍	10ml 33ml	— 前日	400	灰色かび病 灰星病 黒星病	※9 ⑩カナメフロアブル 4,000倍	①前回散布10日以降に収穫が見込まれる場合では散布する。 ②降雨が多く灰星病が心配な場合は、もう一度オンリーワンフロアブル2,000倍(年3回まで・収穫前日まで)を特別散布する。
／	<b>8</b> (9月上中旬)	— M1	(固着性展着剤アビオンE※10 1,500倍 I C ボ ル ド - 66 D 50倍	66ml 2kg	— ) —	400	かいよう病		①付着・耐雨性向上のために、固着性展着剤アビオンE1,000倍を使用してもよい。 ②コスカシバの食入防止のためフェニックスフロアブル4,000倍を第8回目に加用散布してもよい。
／	<b>9</b> (9月下旬)	— M1	(固着性展着剤アビオンE※10 1,500倍 I C ボ ル ド - 66 D 50倍	66ml 2kg	— ) —	400	かいよう病	※10 K.Kステッカー 3,000倍 (注K.Kステッカーは必ず最後に調合する。 又は一般展着剤 10,000倍	
／	<b>特</b> 10月上旬	— M1	(固着性展着剤アビオンE※10 1,500倍 I C ボ ル ド - 66 D 50倍	66ml 2kg	— ) —	400	かいよう病		

# 令和7年度 なし病害虫防除基準（無袋用）

㊦は劇物のため購入の際にはハンコが必要となります。

散布月日	散布時期	FRAC 又は IRAC コード	散布薬剤 (調合順序・使用倍率)	水100ℓ 当り 調合量	収穫前 日数	10a当り 散布量 (ℓ)	対象病害虫名	代替可能薬剤	散布上の注意事項
/	<b>1</b> 発芽前	NC M2	スプレーオイル※1 50倍 石灰硫黄合剤 10倍	(水88ℓ) 2ℓ 10ℓ	発芽前 発芽前	棚栽培 300 立木栽培 350	ハダニ類 カイガラムシ類 アブラムシ類	※1 ハーベストオイル 50倍	①剪定後、切口にトップジンMペースト又はバッチレート を塗布する。 ②カイガラムシ類の発生がある場合は、今回の薬剤散布を 徹底する。
/	<b>2</b> 開花前	— 28 M3	展着剤 10,000倍 サムコルフロアブル10 5,000倍 トレノックスフロアブル 500倍	10ml 20ml 200ml	— 前日 30日	棚栽培 300 立木栽培 350	シンクイムシ類 ハマキムシ類 黒星病 黒斑病 赤星病		①アブラムシ類の発生が心配される場合はウララDF 4,000 倍を加用散布する。
/	<b>3</b> 落花直後	— 4A 3 1	(展着剤 10,000倍) ㊦モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 オンリーワンフロアブル 2,000倍 (トップジンM水和剤※2 1,000倍)	(10ml) 50g 50ml 100g	— 前日 前日 前日)	棚栽培 300 立木栽培 350	アブラムシ類 黒星病 黒斑病 赤星病 (心腐れ症)	※2 ベンレート水和剤 2,000倍	①南水でナシミハバチの発生が多い場合はアーデントフロ アブル 2,000倍を散布しても良い。 ②日本ナシは展着剤 10,000倍を使用する。 ③この時期の西洋ナシはサビ果を生じやすいので、乳剤・ 展着剤は使用しない。 ④ナシキジラミの発生が見られる場合は果樹技術員まで相 談する。 ⑤心腐れ症が心配される場合は第3回にトップジンM水和 剤 1,000倍を加用散布しても良い。 <u>トップジンM水和剤 とベンレート水和剤は、同系統薬剤で、年に一方の使用 となる。</u> ⑥カイガラムシの発生が心配される場合は第4回に㊦ダイ アジノン水和剤 1,000倍、又はサイアノックス水和剤 1,000 倍を加用散布する。 ⑦黒星病の発生が心配される場合はトレノックスフロアブ ルに代えて、スコア顆粒水和剤 3,000倍を使用してもよ い。
/	<b>4</b> 5月上旬	— M3	(展着剤 10,000倍) トレノックスフロアブル※3 500倍	(10ml) 200ml	— 30日	棚栽培 400 立木栽培 450	黒星病 黒斑病 赤星病	※3 スコア顆粒水和剤 3,000倍	
/	5月下旬コンフェューザーN取り付け 10a当り 200本								
/	<b>5</b> 5月中下旬	— 1B M4+M1	(展着剤 10,000倍) ㊦ダイアジノン水和剤 34※4 1,000倍 オキシラン水和剤 600倍	(10ml) 100g 166g	— 14日 3日	棚栽培 400 立木栽培 450	シンクイムシ類 ハマキムシ類 カイガラムシ類 ナシゲンバイ 黒斑病 黒輪紋病 黒星病	※4 サイアノックス水和剤 1,000倍	
/	<b>6</b> 6月上旬	— 1B M4+M1	展着剤 10,000倍 ㊦ダイアジノン水和剤 34※5 1,000倍 オキシラン水和剤 500倍	10ml 100g 200g	— 14日 3日	棚栽培 450 立木栽培 500	シンクイムシ類 ハマキムシ類 黒斑病 黒輪紋病 黒星病	※5 スミチオン水和剤 40 1,000倍 又は㊦オリオン水和剤 1,000倍	①有袋栽培の場合は今後オキシラン水和剤を 600倍にして 散布しても良い。

# 令和7年度 なし病害虫防除基準（無袋用）

／	<b>7</b> 6月中旬	— 4A M3	展着剤 ⑩モスピラン顆粒水溶剤※6 ペンコゼブ水和剤	10,000倍 2,000倍 500倍	10ml 50g 200g	— 前日 30日	棚栽培 <b>450</b> 立木栽培 <b>500</b>	シンクイムシ類 ハマキムシ類 黒斑病 黒星病	※6 バリアード顆粒水和剤 2,000倍	
／	<b>8</b> 6月下旬	— M7 1B	展着剤 ベルコートフロアブル ⑩ダイアジノン水和剤※5	10,000倍 1,500倍 1,000倍	10ml 66ml 100g	— 14日 14日	棚栽培 <b>450</b> 立木栽培 <b>500</b>	黒斑病 輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	※5 { スミチオン水和剤 40 1,000倍 有袋 14日前 無袋 21日前	①西洋なしル・レクチュは薬害が発生するため、ベルコートフロアブルに代えて、オキシラン水和剤 500倍を使用する。
／	<b>9</b> 7月上旬	— 20B 11+7 1A	展着剤 カネマイトフロアブル※7 ナリアWDG※8 ⑩オリオン水和剤※5	10,000倍 1,000倍 2,000倍 1,000倍	10ml 100ml 50g 100g	— 前日 前日 3日	棚栽培 <b>450</b> 立木栽培 <b>500</b>	ハダニ類 黒斑病 輪紋病 うどんこ病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	※7 マイトコーネフロアブル (高温時不可) 1,000倍 ※8 オキシラン水和剤 500倍 ※5 { スミチオン水和剤 40 1,000倍 有袋 14日前 無袋 21日前	①西洋なしル・レクチュは袋掛け前の場合、薬害が発生するため、ナリアWDGに代えて、オキシラン水和剤 500倍を使用する。
／	<b>10</b> 7月中旬	— 3A M1	展着剤 アーデントフロアブル 9 キノンドー顆粒水和剤	10,000倍 2,000倍 1,000倍	10ml 50ml 100g	— 前日 3日	棚栽培 <b>450</b> 立木栽培 <b>500</b>	黒斑病 輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	※9 ⑩イカズチWDG 1,500倍	
／	<b>11</b> 7月下旬	6 28 M1	コロマイト乳剤 エクシレルSE※10 キノンドー顆粒水和剤	1,000倍 5,000倍 1,000倍	100ml 20g 100g	前日 前日 3日	棚栽培 <b>450</b> 立木栽培 <b>500</b>	ハダニ類 黒斑病 輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	※10 サムコルフロアブル 10 2,500倍	①コロマイト乳剤は、西洋なしル・レクチュに薬害を発生する可能性があるため、袋掛け後の使用とする。
／	<b>12</b> 8月上中旬	— 3A M1	展着剤 アーデントフロアブル※9 キノンドー顆粒水和剤	10,000倍 2,000倍 1,000倍	10ml 50ml 100g	— 前日 3日	棚栽培 <b>450</b> 立木栽培 <b>500</b>	シンクイムシ類 ハマキムシ類 カメムシ類 黒斑病 輪紋病	※9 ⑩イカズチWDG 1,500倍	
／	<b>13</b> 8月下旬	— M1	展着剤 キノンドー顆粒水和剤	10,000倍 1,000倍	10ml 100g	— 3日	棚栽培 <b>400</b> 立木栽培 <b>450</b>	黒斑病 輪紋病		①モンパ病には休眠期にフロンサイドSC 1,000倍を1樹当たり 100～200ℓを土壌かん注する。



# 令和7年度 おうとう病害虫防除基準

⑩は劇物のため購入の際にはハンコが必要となります。

散布月日	散布時期	FRAC 又は IRAC コード	散布薬剤 (調合順序・使用倍率)	水100ℓ 当り 調合量	収穫前 日数	10a当り 散布量 (ℓ)	対象病害虫名	散布上の注意事項
／	<b>1</b> 発芽前 3月中下旬	NC	スプレーオイル 33倍	(水97ℓ) 3ℓ	発芽前	350	カイガラムシ類	①スプレーオイルに代えてハーベストオイル50倍を使用してもよい。 ②コスカシバ対策として、発芽前にガットキラー乳剤100倍を特別散布してもよい。
／	<b>2</b> 開花始め (4月上旬)	— 17	展着剤 10,000倍 バスタード顆粒水和剤 1,000倍	10ml 100g	— 前日	400	灰星病 幼果菌核病	①カイガラムシ類対策として、アプロードフロアブル1,000倍を加用散布してもよい。
／	<b>3</b> 落花直後	— M7	展着剤 10,000倍 ベルコートフロアブル 2,000倍	10ml 50ml	7日	400	灰星病	①ベルコートフロアブルに代えてフルーツセイバー1,500倍を使用してもよい。
／	<b>4</b> 4月下旬	M7 1B	ベルコートフロアブル 2,000倍 ⑩ダイアジノン水和剤34 1,000倍	50ml 100g	7日 14日	500	灰星病 ケムシ類 カイガラムシ類	①炭疽病の発生が心配な場合は、オーソサイド水和剤800倍を特別散布する。但し、果面の汚れには十分注意する。
／	<b>5</b> 被覆直前 (5月下旬)	3A 3 20B	⑩スカウトフロアブル 3,000倍 オンリーワンフロアブル 2,000倍 (カネマイトフロアブル 1,000倍)	33ml 50ml 100ml	前日 前日 7日	500	オウトウショウジョウバエ 灰星病 (ハダニ類)	①カネマイトフロアブルに代えて、マイトコーネフロアブル1,000倍(収穫3日前)を使用してもよい。
／	<b>特</b>	3A 11+7	⑩テルスターフロアブル 4,000倍 ナリアWDG 2,000倍	25ml 50g	前日 前日	400	オウトウショウジョウバエ 灰星病	①病害虫の発生が心配される場合は、特別散布する。但し、収穫中の品種に十分注意する。
／	<b>特</b> 6～7月 (成熟期)	3 3A	オーシャインフロアブル 3,000倍 アーデントフロアブル 2,000倍	33ml 50ml	前日 前日	400	灰星病 オウトウショウジョウバエ	
／	<b>6</b> 収穫直後 (7月上中旬)	— 6 1B M4	展着剤 10,000倍 コロマイト乳剤 1,000倍 ⑩ダイアジノン水和剤34 1,000倍 オーソサイド水和剤80 800倍	10ml 100ml 100g 125g	— 7日 14日 3日	500	ハダニ類 カイガラムシ類 褐色せん孔病	①オーソサイド水和剤は、もも・野菜に飛散しないよう注意する。 ②ハダニ類の発生が多い場合は、ダニゲッターフロアブル2,000倍(年1回まで)を加用散布する。 ③ダイアジノン水和剤に代えて、サイアノックス水和剤1,000倍(年2回まで)を使用してもよい。 ④コスカシバ対策として、9月上中旬に、フェニックスフロアブル4,000倍を特別散布してもよい。
／	<b>7</b> 7月中下旬	— M3 1B	展着剤 10,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 ⑩ダイアジノン水和剤34 1,000倍	10ml 200ml 100g	— 21日 14日	500	褐色せん孔病 カイガラムシ類	

# 令和7年度 うめ病害虫防除基準

⑩は劇物のため購入の際にはハンコが必要となります。

散布月日	散布時期	FRAC 又は IRAC コード	散布薬剤 (調合順序・使用倍率)	水100ℓ 当り 調合量	収穫前 日数	10a当り 散布量 (ℓ)	対象病害虫名	散布上の注意事項
／	<b>1</b> 発芽開花期 (3月上旬)	— M2	展着剤 10,000倍 石灰硫黄合剤 10倍	(水90ℓ) 10ml 10ℓ	— 発芽前	300	カイガラムシ類 ハダニ類	①コスカシバ対策として、発芽前にガットキラー乳剤100倍を特別散布してもよい。
／	<b>特</b> 4月上中旬 展葉初期 (80%落花期)	— 41	展着剤 10,000倍 マイコシールド 1,500倍	10ml 66g	— 21日	400	かいよう病	①昨年かいよう病が発生した場合は、必ず散布する。
／	4月下旬 スカシバコン取り付け 10a当り 100本							
／	<b>2</b> 4月下旬	— 4A 3 41	展着剤 10,000倍 ⑩モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 オンリーワンフロアブル 2,000倍 マイコシールド 1,500倍	10ml 25g 50ml 66g	— 前日 前日 21日	500	アブラムシ類 黒星病 かいよう病	①カイガラムシ類の発生が多い場合はアプロードフロアブル1,000倍(収穫7日前)を加用散布する。
／	<b>3</b> 5月上旬	— M2 4A	展着剤 10,000倍 イオウフロアブル 500倍 ⑩バリアード顆粒水和剤 4,000倍	10ml 200ml 25g	— — 前日	500	黒星病 アブラムシ類	
／	<b>4</b> 5月中旬 下旬	中・大梅 — M2	展着剤※1 10,000倍 イオウフロアブル 600倍	10ml 166ml	— —	500	黒星病	①アブラムシ類の発生が多い場合は⑩バリアード顆粒水和剤4,000倍又は、ダントツ水溶剤4,000倍(収穫前日まで)を使用する。 ※1 汚れ軽減のためまくびか10,000倍に代えてもよい。
／	<b>5</b> 6月上旬	中・大梅 — M2	展着剤※1 10,000倍 イオウフロアブル 600倍	10ml 166ml	— —	500	黒星病	
／	<b>6</b> 7月上旬 (収穫後)	— 1 1B	展着剤 10,000倍 トップジンM水和剤 1,500倍 ⑩ダイアジノン水和剤34 1,000倍	10ml 66g 100g	— 21日 21日	500	胴枯病 黒星病 アブラムシ類	①アブラムシ類が激発している場合は、⑩ダイアジノン水和剤に代えて⑩モスピラン顆粒水溶剤2,000倍を散布する。 ②カイガラムシ類防除のため枝幹部へも散布を行う。 ③コスカシバ対策として、9月上中旬に、フェニックスフロアブル4,000倍を特別散布してもよい。
／	<b>7</b> 休眠期	NC	スプレーオイル 33倍	(水97ℓ) 3ℓ	休眠期	300	カイガラムシ類	①スプレーオイルに代えて、ハーベストオイル50倍を使用してもよい。



# 展着剤の利用

展着剤は農薬の効果を一層高める働きがある。農薬が十分な効果を発揮するためには、薬剤が作物など散布対象物の表面に広がり、また細かな隙間にも行きわたり、均一に付着する必要がある。この働きを助けているのが、展着剤の有効成分である界面活性剤です。界面活性剤は、様々な作用を持っている。

## 〔1〕 展着剤の種類

展着剤には大きく分けて3種類あり、それぞれ次のような特徴があり、その種類の中でも展着剤毎に特徴がある。

- 1 一般展着剤（スプレッター）  
濡れ性、付着性、拡張性、懸垂性などの作用を持ち、薬液を均一に付着させる。
- 2 機能性展着剤（アジュバンド）  
浸透・浸達性を持ち、薬液（有効成分）を積極的に、作物に「浸み込ませる効果」や病原菌・害虫の細胞などの標的部分によく付く。
- 3 固着性展着剤（ステッカー）  
付着性・固着性等を有し、薬剤を植物体に固着させる事で耐雨性等の残効性を高める。

## 〔2〕 薬剤混合の順番・使用上の注意点

- 1 薬剤混合の順番
  - ① 展着剤は製剤を水中で分散しやすくする作用があるので、基本は展着剤を最初に入れる。ただしK・Kステッカーは、最後に入れる。
- 2 使用上の注意点
  - ① 濃度は、低ければ効果は少ないが、高くてもかえって農薬が流れ落ちてしまう。
  - ② 乳剤には、界面活性剤が10%程度含まれているので、希釈倍率が1,000倍程度なら展着剤は使用しなくても良い。
  - ③ 薬害を起こす、「品目・品種・使用時期等」、「登録内容」をラベルで確認し使用する。

## 〔3〕 実際の展着剤（展着剤の一部で、主に使用されているもの）

種類	商品名	使用倍率	備考
一般展着剤	Yハッテン	5,000～10,000	
	アイヤーエース	10,000	消泡性
	まくぴか	10,000	濡れ性よく、乾き早く、汚れ軽減
	ラビデン3S	10,000	
機能性展着剤	アプローチBI	1,000	浸透性が高い
	ササラ	3,000	消泡性、濡れ性よく、乾き早く、汚れ軽減
	スカッシュ	1,000	ダニ剤効果アップ※1、汚れ軽減
	ドライバー	1,000	濡れ性よく、乾き早く、汚れ軽減、殺菌剤効果向上※2
固着性展着剤	K・Kステッカー	3,000	果実袋の粉立ちが少ない。
	アピオンE	500～2,000	特に固着性が高い。

※防除基準内の「展着剤」記載は、上記の「Yハッテン・アイヤーエース・ラビデン3S」を基本とする。

※1 すべてのダニ剤の効果がアップするわけではありません。

※2 すべての病害に効果が向上するわけではありません。

# 葉面散布肥料の利用

作物の養分が不足すると、樹体や果実には、さまざまな症状が現れる。このとき、土壌から肥料等を施用しても吸収には時間がかかる。症状に応じて、即効的に効果が期待できる葉面散布を実施する。また、果実の品質を向上させたい場合にも有効な手段となる。

下記に一部使用例を示すので、積極的に利用する。使用例の他にも、多様な使用の仕方や種類がある。

なお葉面散布肥料は、一般的に農薬との混用は可能だが、一部混用できない農薬や葉面散布肥料同士の混用ができない場合が多い。また、プルーン・すもも・ぶどう等、果粉がある作物は使用時期に注意が必要。このため、ラベルを確認し使用する。不明な点は、果樹情報や技術者に相談して使用する。

使用目的	商品名	使用倍率	使用例
総合的な品質向上	オルガミン	1,000～2,000	落花後からの薬剤散布に混用
	ケルパック66	5,000～500	
	友果	1,000～500	
樹勢維持・回復	アミノメリット青	500	開花前から5月頃
	尿素	500	
収穫前品質向上	色一番E	2,000	収穫前1ヶ月に2～3回 7～14日間隔で散布
	カルビタP	770	
	メリット赤	500	収穫30～40日前、着色初期等
	モーニングシャイン	1,000～500	
カルシウム補給	カルタス	1,000	落花後1ヶ月の間に2～3回 収穫前1ヶ月の間に2～3回 7～14日間隔で散布
	カルビタ	1,000	
	スイカル	1,000	又は落花後から毎月1回
	ストピットII	500	
マグネシウム補給	グリーントップ70	500	落花後～収穫前
	リーフマグ	1,000	
マンガン補給	グリーンデイズ	1,000	
	硫酸マンガン	300	
凍霜害対策	アイスバリア	250～333	発芽期～落花直後
	霜ガード	50～100	開花3～4週間前、開花前、落花後
果面保護 薬害軽減	クレフノン	100	落花後～7月頃、銅水和剤使用時